

ニッセイ インターネットアンケート ～「バレンタインデー」について～

日本生命保険相互会社（社長：清水博）は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューの一つとして、ホームページ (<https://www.nissay.co.jp>) 内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「バレンタインデー」に関するアンケート調査を実施しました。

《アンケート概要》

- 実施期間：2023年1月4日(水)～1月15日(日)
- 実施方法：インターネットアンケート(「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー)
- 回答者数：9,907名(男性：4,944名、女性：4,780名、性別回答なし：183名)

＜年代別回答者数＞

[名]

年代							合計
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
男性	272	625	916	1,660	1,048	423	4,944
女性	392	769	908	1,508	845	358	4,780
合計	664	1,394	1,824	3,168	1,893	781	
占率	6.8%	14.3%	18.8%	32.4%	19.2%	7.9%	

《アンケート結果のポイント》

ポイント①

質問 1～4

- 今年の「バレンタインデー」にプレゼントを渡す予定と回答した方の割合は、昨年と比べて女性は増加、男性は減少、全体としては34.5%と昨年から減少となった。
- 「自分自身」にプレゼントを渡すと回答した方が12.2%と、一昨年および昨年と比べて増加した。一方、「職場の人」と回答した方は14.7%と減少した。
- 職場の方や仕事関係者へのプレゼントについて、76.2%の方が「(どちらかといえば)必要でない」と回答した。

ポイント②

質問 5～7

- 今年の「バレンタインデー」に配偶者・パートナーや恋人等へ渡すプレゼントは「チョコレート」と回答した方が80%超で最も多かった。
- 今年の「バレンタインデー」に配偶者・パートナーや恋人等へ渡すプレゼントの金額の平均は3,324円と昨年から増加した。
- 「自分自身」へのプレゼントの金額の平均が2,527円と昨年から大きく減少した。

ポイント③

質問 8～11

- 83.0%の方が、物価上昇による家計の影響があると回答した。一方、約8割の方が「バレンタインデー」のプレゼントの予算・人数は変わらないと回答している。
- 「渡す人数を減らす」と回答した方の中で、減らす対象として「職場の人」と回答した割合が30.8%と最も高く、20代以下では42.4%となった。

質問 1 今年の「バレンタインデー」はプレゼントを渡しますか？（回答者数：9,506名）

質問 2 今年に誰にプレゼントを渡しますか？（回答者数：3,627名）※複数回答可

質問 3 職場の人や職場以外の仕事関係者へのプレゼントを渡すことについてどう思いますか？

（回答者数：6,127名）※複数回答可

質問 4 <質問 3 で「必要ではないと思う」「どちらかといえば必要ではないと思う」と回答した方への質問>職場の人や職場以外の仕事関係者へのプレゼントを渡すことは、なぜ必要ではないと思いますか？（回答者数：4,297名）※複数回答可

- 今年の「バレンタインデー」にプレゼントを渡す予定と回答した方の割合は、昨年と比べて女性は増加、男性は減少となった。全体としては34.5%と昨年から減少となった。
- 「バレンタインデー」にプレゼントを渡すと回答した方の割合が最も高かった都道府県は長崎県となった。また、上位4位までが九州・沖縄地方の都道府県となった。
- 「自分自身」にプレゼントを渡すと回答した方が12.2%と、一昨年および昨年と比べて増加した。一方、「職場の人」と回答した方は14.7%と減少した。
- 職場の方や仕事関係者へのプレゼントについて、76.2%の方が「必要でない」と回答した。
- 職場の方や仕事関係者へのプレゼントを渡すことについて「必要でない」と回答している方の理由として、最も多かったのは「相手に気を遣わせてしまうから」（35.3%）だった。

■今年にプレゼントを渡す予定があるか

		（%）		
		今年	昨年	一昨年
全体		34.5	36.1	29.7
	男性	10.3	13.0	7.6
	女性	59.8	59.2	54.5

■渡すと回答した方が多かった都道府県ランキング

（%）		
順位	都道府県	占率
1位	長崎県	64.7
2位	大分県	50.0
3位	沖縄県	49.1
4位	宮崎県	47.8
5位	徳島県	42.1

（%）		
順位	都道府県	占率
43位	和歌山県	27.7
44位	茨城県	27.6
45位	香川県	26.6
46位	宮城県	24.0
47位	愛媛県	23.6

■今年に誰にプレゼントを渡すか。また、昨年や一昨年は誰に渡したか

（%）			
	今年	昨年	一昨年
配偶者・パートナー	64.1	63.4	61.8
子	27.8	29.5	29.3
親	15.6	17.8	17.9
兄弟・姉妹	5.2	5.7	5.8
その他の親族	6.0	8.2	9.0
恋人	5.0	6.0	6.5
好意をいっている人	1.8	2.0	1.5
職場の人（上司、同僚、部下）	14.7	17.3	21.0
職場以外の仕事関係者	1.9	2.7	3.5
友人	8.3	7.7	8.8
お世話になっている人	7.8	8.3	8.1
芸能人・アイドル	0.2	0.2	0.1
自分自身	12.2	7.5	5.7
その他	3.3	1.4	1.6

■職場の人や職場以外の仕事関係者へのプレゼントを渡すことについてどう思いますか？

(%)

	全体	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
必要ではないと思う	43.0	31.1	40.7	42.9	44.6	44.1	50.4
どちらかといえば必要ではないと思う	33.2	31.9	31.5	32.2	33.9	35.9	29.1
どちらかといえば必要だと思う	18.4	26.4	22.1	18.2	17.1	16.1	15.7
必要だと思う	5.4	10.6	5.7	6.7	4.5	3.9	4.8

■職場の人や職場以外の仕事関係者へのプレゼントを渡すことは、なぜ必要ではないと思いますか？

(%)

	全体	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
相手に気を遣わせてしまうから	35.3	33.8	33.1	39.3	34.1	37.2	31.8
面倒くさいから	25.9	22.1	29.6	29.2	25.0	23.5	26.5
お金がかかるから	20.8	23.5	28.4	26.2	22.4	14.0	12.9
何を渡せばいいかわからないから	8.6	8.8	7.7	12.4	7.7	7.8	8.2
甘いものが苦手な人もいるから	5.8	10.3	8.3	6.4	6.0	4.7	2.4

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部 上席研究員 久我尚子くが なおこのコメント>



バレンタインのプレゼントを渡す相手は、「配偶者・パートナー」や「自分自身」で増加傾向が続く一方、「職場の人（上司、同僚、部下）」や「職場以外の仕事関係者」では減少傾向が続いていることから、義理チョコ文化が衰退し、本命の相手に渡すことに加え、ご褒美として自分自身のために購入する傾向が高まっていることが伺えます。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、親密ではない人との関係が希薄化していることも要因の一つと考えられます。

また、仕事関係者へのプレゼントを不要と考える割合は、50代で最も高く、若いほど低いことを意外に思われる方も多いのではないのでしょうか。不要と考える理由を見ると、「相手に気を遣わせてしまうから」が首位であることから、管理職が多い年代では、これまでに部下などからプレゼントをもらって、お返しに気を遣った経験も多かったために不要と考える割合が高いのかもしれませんが。

- 質問 5 今年の「バレンタインデー」は配偶者・パートナーや恋人、好意をいただいている人に何のプレゼントを渡しますか？（回答者数：2,463名）※複数回答可
- 質問 6 今年の「バレンタインデー」は配偶者・パートナーや恋人、好意をいただいている人へのプレゼントの金額はいくらを考えていますか？（回答者数：2,426名）
- 質問 7 今年の「バレンタインデー」は自分自身へのプレゼントの金額はいくらを考えていますか？（回答者数：132名）
- 質問 8 物価の上昇による家計への影響はありますか？（回答者数：7,566名）※複数回答可
- 質問 9 物価の上昇は「バレンタインデー」のプレゼントの予算に影響しますか？（回答者数：7,303名）
- 質問 10 物価の上昇は「バレンタインデー」のプレゼントを渡す人数に影響しますか？（回答者数：7,281名）
- 質問 11 昨年より減らすのは、誰のプレゼントですか？（回答者数：1,026名）※複数回答可

- 今年の「バレンタインデー」に配偶者・パートナーや恋人等へ渡すプレゼントは「チョコレート」と回答した方が80%超で最も多かった。
- 今年の「バレンタインデー」に配偶者・パートナーや恋人等へ渡すプレゼントの金額の平均は3,324円と昨年から増加した。
- 「自分自身」へのプレゼントの金額の平均が2,527円と、昨年から大きく減少した。
- 全体で83.0%の方が、物価上昇による家計の影響があると回答した。一方、約8割の方が「バレンタインデー」のプレゼントの予算・渡す人数は変わらないと回答している。
- 「渡す人数を減らす」と回答した方の中で、減らす対象として「職場の人」と回答した割合が30.8%と最も高く、20代以下では42.4%となった。

■「バレンタインデー」に配偶者・パートナーや恋人等に何をプレゼントするか

順位		今年	昨年
1位	チョコレート	81.2	84.7
2位	チョコレート以外のお菓子	17.3	14.5
3位	お酒	8.6	9.5
4位	食事（外食含む）	5.4	4.1
5位	衣類	3.0	2.6
6位	手紙	1.3	1.1
7位	アクセサリ	1.3	0.9
8位	花	1.3	0.8
9位	旅行	0.9	0.1
10位	お金（商品券含む）	0.6	0.2
-	その他	2.5	2.5

■「バレンタインデー」に渡すプレゼントの金額

	配偶者や恋人等へ	自分自身へ
1,000円未満	30.9	31.9
1,000～2,000円未満	28.2	30.3
2,000～4,000円未満	20.0	20.5
4,000～10,000円未満	15.6	15.1
10,000～30,000円未満	3.7	2.3
30,000円以上	1.6	0.0
	(円)	
平均値	3,324	2,527
平均値(昨年)	2,730	3,969

■物価の上昇による家計への影響はあるか？

	全体
ある	54.2
少しある	28.8
あまりない	10.6
ない	6.4

■物価の上昇は「バレンタインデー」のプレゼントの予算に影響するか？

	全体
昨年より増やす	2.9
変わらない	79.9
昨年より減らす	17.2

2割弱の方が予算を減らすと回答。

■物価の上昇は「バレンタインデー」のプレゼントを渡す人数に影響するか？

	全体
昨年より増やす	1.6
変わらない	83.6
昨年より減らす	14.8

■<渡す人数を減らすと回答した方への質問> 誰に渡すプレゼントを減らすのか？

	占率	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
職場の人（上司、同僚、部下）	30.8	42.4	28.6	30.8	33.0	27.9	13.7
配偶者・パートナー	25.9	17.6	28.6	25.5	26.3	27.4	25.5
その他	13.6	5.9	14.9	9.1	13.5	17.9	27.5
職場以外の仕事関係者	11.3	14.1	12.4	13.5	12.6	5.6	5.9
自分自身	10.4	15.3	4.3	9.6	11.4	14	5.9
子	8.4	5.9	6.8	9.6	9.4	7.8	7.8
お世話になっている人	7.8	8.2	6.2	9.1	6.7	8.4	11.8
友人	7.5	15.3	6.8	7.2	7.0	6.1	5.9
親	4.4	3.5	9.9	6.3	3.2	0.6	2.0
その他の親族	4.2	4.7	4.3	3.4	4.7	3.9	3.9
兄弟・姉妹	2.6	4.7	1.9	2.4	1.8	3.4	5.9
好意をいただいている人	2.1	2.4	2.5	3.8	2.0	0.6	0.0
恋人	1.2	5.9	0.0	0.5	1.2	0.6	2.0
芸能人・アイドル	1.0	2.4	0.6	1.0	0.6	1.1	2.0

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部 上席研究員 ^{くがなおこ}久我尚子のコメント>



物価高が進行し、家計の負担感が増す中でも、約8割はバレンタインの予算は変わらないとの回答でした。食料や日用品などの日常的な消費では節約意識が高まっていますが、バレンタインという1年に1回の非日常的な消費では節約意識は働きにくいでしょう。

一方で2割弱は予算を減らすとの回答ですが、減らす対象は「職場の人（上司、同僚、部下）」が多く、特に29歳以下では4割を超えて多くなっています。なお、29歳以下はP.3で仕事関係者へのプレゼントを必要と考える割合が比較的高かった年代ですので、物価高で節約意識が高まることで、義理チョコ文化は一層、衰退へ向かうのかもしれない。

以上

2022-3314G, 広報部